

農作物生育・技術情報10号

日高農業改良普及センター日高西部支所
J A 平取町 J A 門別 J A とみかわ

1 水稲生育状況

(1) 籾乾燥時の注意事項

籾水分が25%以上の場合は、熱風温度40℃未満で乾燥を開始し、籾水分が25%未満に下がった後に、通常の熱風温度で乾燥する。

胴割れは、晴天時など空気が乾燥している日に発生しやすいので、急激な乾燥は避け熱風温度を下げてゆっくり乾燥させる。

(2) 収穫後のほ場管理

1) 稲わら処理について

稲わらは、ほ場に放置せず速やかに搬出する。作業の都合で搬出できない場合は、土壌表面に浅く混ぜ込む。

いもち病が発生した水田の稲わら(もみ殻含む)は、ほ場周辺に放置せず搬出して、ほ場や育苗ハウスから離れた場所に堆積して堆肥化させる。

2) 透排水性の改善

走行軌跡に水がたまる場合は、溝きりして落水させるなど排水対策を行い、水田の乾燥に努める。秋起こしは、天候の良い日に水田乾燥状態を確認してから行う。

3) 畦などの確認

畦や排水溝の状態を確認して、補修や掃除を行い機能を回復させる。

4) 土壌診断の実施

土壌診断結果をもとに、地力窒素が残っている場合は稲わらを排出し減肥する。また、不足している場合は、完熟した堆肥等の有機物を入れる。

2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト 桃太郎 桃太郎8 桃太郎ギガ	<ul style="list-style-type: none"> 5月定植で8～9段収穫中。 6月定植で7段以降収穫中。 葉かび病・灰色かび病・ゴーストスポット等の発生が見られる。 オンシツコナジラミが一部ほ場で発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 病害葉の摘葉等を行う。 気温が低くなってきたので、夜温13℃を目安に内張りカーテン等の利用で保温する。
ハウス軟白ねぎ ホワイト等	<ul style="list-style-type: none"> 葉先枯れ症状による黄色斑紋症状が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 黄色斑紋症状はアザミユカ類の食害に似ているので注意する。 葉先枯れが発生した時点で農薬散布を行う。
アスパラガス (ハウス立茎) スーパーウェルカム	<ul style="list-style-type: none"> 斑点病が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> かん水は11月頃まで行う。 樹の80%以上が黄化したら刈取る。
きゅうり オーシャン	<ul style="list-style-type: none"> 生育はほぼ順調で、中段位の子づる・孫づるの収穫が進んでいる。 うどんこ病・べと病の発生やウリノメイガ・ハダニ類の食害が一部のほ場で見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> うどんこ病、べと病の防除には、予防効果の高い薬剤と、治療効果を伴う薬剤を使い分け、防除効果を高める。 ウリノメイガ、ハダニ類の発生初期を把握しながら系統別薬剤を用いてローテーション防除を実施する。

9～10月は秋の農作業安全運動期間です ゆとりを持った作業を計画しましょう!